

『海紅』(山崎聰第一句集) より

愛にぶき冬はじまりて山のこえ  
渚あり粹みて男の手の刃物  
陽の底で母濡れ十二月八日の森  
涸れ川に雪降る眼帯の裏灯り  
灯は朝のかなしみばかり蜜柑山  
冬夜逢い人差し指のあたたかさ  
文鳥を飼い白濁の冬没陽  
傷をもつもの光り合う枯木山  
海鼠に眼星のまわりに空ありて  
降る雪や男あらわれ女消ゆ